

問1 大伴家持が活躍し、万葉集がまとめられたのは何時代？

1. 奈良時代 2. 平安時代 3. 飛鳥時代 4. 鎌倉時代

問2 710年に唐の都である長安をモデルにして建設された、奈良の都を何という？

1. 平城京 2. 藤原京 3. 平安京 4. 長岡京

問3 郡司が行政に携わった、大宝律令などに基づく国家体制を何という？

1. 古代国家 2. 中央集権国家 3. 律令国家 4. 封建国家

問4 奈良時代、唐の文化の影響を強く受けて華やかに発展した文化を何という？

1. 白鳳文化 2. 飛鳥文化 3. 天平文化 4. 国風文化

問5 奈良時代、人口増加に伴う口分田の不足を解消するために、開墾した土地の永代私有を認めた法律を何という？

1. 大化の改新 2. 墾田永年私財法 3. 公地公民制 4. 三世一身法

問6 正倉院で見られる、三角材を組み上げて湿気を防ぐ建築様式を何という？

1. 寝殿造 2. 書院造 3. 校倉造 4. 数寄屋造

問7 奈良時代、墾田永年私財法をきっかけに貴族や寺院が広大な土地を所有するようになった結果生まれた、私有地のことを何という？

1. 保 2. 公領 3. 名田 4. 荘園

問8 天皇を中心として、国司や郡司などの仕組みを整えて全国を支配した国家体制を何という？

1. 律令国家 2. 封建国家 3. 都市国家 4. 中央集権国家

問9 8世紀初めに編纂された、神話から推古天皇までの日本の成り立ちを記した歴史書を何という？

1. 懷風藻 2. 日本書紀 3. 古事記 4. 風土記

問10 万葉集にある歌の序文から引用された、現在の日本の元号を何という？

1. 平成 2. 令和 3. 大正 4. 昭和

問11 大化の改新以降、土地や人々はすべて天皇（国家）のものであるとする原則を何という？

1. 一国平均役 2. 公地公民 3. 土地台帳 4. 荘園公領制

問12 奈良時代の仏教文化を象徴する建造物で、西アジアの品々も収められている有名な寺院を何という？

1. 薬師寺 2. 法隆寺 3. 唐招提寺 4. 東大寺

問13 聖武天皇が国分寺とともに、日本各地の女性のために建立させた寺院を何という？

1. 国分寺 2. 元興寺 3. 大安寺 4. 国分尼寺

問14 唐だけでなく、シルクロードを経由して日本に影響を与えた地域の文化を何という？

1. 中央アジア 2. 西アジア 3. 東アジア 4. 東南アジア

問15 奈良時代、仏教の影響を強く受けた国際色豊かな文化を栄えさせた天皇は誰？

1. 光仁天皇 2. 称徳天皇 3. 聖武天皇 4. 元明天皇

答え合わせ・解説

問1	答え 1 奈良時代	奈良時代は、仏教文化が花開くとともに、国史の編纂や文学作品の執筆が盛んに行われた時期です。歌人である大伴家持はこの時代の末期に活躍し、彼を中心に日本最古の歌集である『万葉集』が編纂されました。この時代、国家が整い、大陸の文化を吸収しながら日本独自の個性を確立しようという気運が強まっていました。
問2	答え 1 平城京	平城京は、710年に元明天皇によって奈良の地に建設された都です。唐の都である長安をモデルにして設計され、天皇を中心とした政治体制を整えるための国家の拠点となりました。計画的に道路が配置され、貴族の邸宅や立派な寺院が立ち並び、当時としては非常に高いレベルの都市機能を持っていました。
問3	答え 3 律令国家	律令国家では、公地公民の原則に基づき、戸籍を作成して人々に税を課しました。中央では二官八省が行政を担い、地方では国司と郡司が行政の実務を行うシステムが構築されました。
問4	答え 3 天平文化	天平文化は、東大寺大仏の建立や唐招提寺のような壮麗な建築、精巧な仏像彫刻などが特徴です。また、『古事記』や『日本書紀』の編纂など、歴史書や文学においても大きな発展が見られました。
問5	答え 2 墾田永年私財法	743年に制定された墾田永年私財法は、新しく開墾した土地の永代私有を認めるものです。それまでは一定期間後に土地を返還するルールでしたが、この法律により私有が認められたことで、農民や有力者による開墾が活発になりました。
問6	答え 3 校倉造	校倉造は、断面が三角形の木材を井桁（いげた）に組んで壁を作る工法です。湿気が多いときは木材が膨らんで隙間をふさぎ、乾燥すると木材が縮んで風を通すという、自然の作用を利用した高い調湿機能を備えています。
問7	答え 4 荘園	こうして形成された私有地が荘園です。有力者は税を逃れるために土地を荘園として確保し、支配力を強めました。これにより、天皇を中心として全国の土地と民を直接支配する「公地公民」の制度が維持できなくなりました。
問8	答え 1 律令国家	律令国家とは、法律（律と令）に基づき、官僚組織を整えて全国を支配する体制です。中央には太政官などの行政機関、地方には国・郡・里を設置し、中央から役人を派遣しました。この仕組みにより、戸籍を作成して人々に税を課し、中央政府が全国の土地と人民を把握する支配構造を実現しました。
問9	答え 3 古事記	
問10	答え 2 令和	「令和」は、日本で初めて日本の古典（国書）から選ばれた元号です。奈良時代の歌人である大伴旅人らが、梅の花を愛でる宴で詠んだ歌の序文にある「初春の令月にして、気淑く風和らぎ」という一節から引用されました。「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められています。
問11	答え 2 公地公民	公地公民とは、すべての土地と人民を国家が直接管理し、公的なものとする原則です。これにより戸籍を作り、国民に田地を分け与えることで、税を徴収する仕組みを整えました。
問12	答え 4 東大寺	東大寺は、当時の都である平城京に建立された巨大な寺院です。特に聖武天皇が発願した「東大寺の大仏」は、当時の国家の威信と仏教への信仰心の象徴でした。この寺院の宝物を収める正倉院には、シルクロードを經由して伝わった多くの貴重な宝物が現在も保管されており、当時の国際交流の様子を伝えています。
問13	答え 4 国分尼寺	国分尼寺は、国分寺と同様に「鎮護国家」の願いを込めて建てられました。法華滅罪之寺とも呼ばれ、女性僧侶（尼）が修行を行い、祈りを捧げる場所でした。各地の国府の近くに建てられ、国分寺とともに仏教信仰の地域的拠点として重要な役割を果たしました。
問14	答え 2 西アジア	日本が派遣した遣唐使を通じて、唐には西アジアのペルシャ文化やインドの仏教美術などが流入していました。それらは日本にも伝わり、東大寺の正倉院に収められている宝物の中に、ガラス器や独特の模様が施された品々として確認できます。
問15	答え 3 聖武天皇	聖武天皇は熱心な仏教徒で、仏教による国の守り（鎮護国家）を理想としました。彼が中心となって栄えた文化は「天平文化」と呼ばれ、遣唐使を通じて唐や西域の文化を積極的に取り入れました。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 律令制	律令制は、中央に省を置く官僚機構や、地方への国司の派遣、戸籍をもとにした班田収授法などの制度によって構成されています。これにより、国家による土地と人民の直接的な統治が実現しました。
問2	答え 1 万葉集	万葉集は、奈良時代末期に大伴家持らによってまとめられたと言われる、日本最古の和歌集です。約4500首もの歌が収められており、天皇や貴族だけでなく、防人や農民といった庶民の歌も含まれているのが大きな特徴です。当時の人々の生活感情や社会の様子を知るための貴重な歴史資料となっています。
問3	答え 4 国司	「国司」は、朝廷から地方の「国」に派遣される長官です。その国の政治・裁判・軍事など全般を管理する非常に重要な職務でした。任期があり、現地の実務を担う郡司を指揮して効率的な地方支配を行いました。
問4	答え 1 沿岸警備	防人は、律令制における国防の要として、特に重要視された九州北部の防衛を任されました。農民の中から徴兵されて派遣されましたが、任期は長く、遠い故郷を離れて厳しい監視活動を続けなければなりませんでした。彼らの任務は国の平穏を守るための最前線でした。
問5	答え 1 律令国家	律令国家とは、法律（律と令）に基づき、官僚組織を整えて全国を支配する体制です。中央には太政官などの行政機関、地方には国・郡・里を設置し、中央から役人を派遣しました。この仕組みにより、戸籍を作成して人々に税を課し、中央政府が全国の土地と人民を把握する支配構造を実現しました。
問6	答え 1 奈良時代	奈良時代は、仏教文化が花開くとともに、国史の編纂や文学作品の執筆が盛んに行われた時期です。歌人である大伴家持はこの時代の末期に活躍し、彼を中心に日本最古の歌集である『万葉集』が編纂されました。この時代、国家が整い、大陸の文化を吸収しながら日本独自の個性を確立しようという気運が強まっていました。
問7	答え 2 西アジア	日本が派遣した遣唐使を通じて、唐には西アジアのペルシャ文化やインドの仏教美術などが流入していました。それらは日本にも伝わり、東大寺の正倉院に収められている宝物の中に、ガラス器や独特の模様が施された品々として確認できます。
問8	答え 1 国司	国司は、中央政府の意向を地方へ伝え、郡司を管理することで徴税や戸籍管理を行いました。郡司の実務を監視し、定期的に中央へ報告する義務がありました。
問9	答え 3 校倉造	校倉造は、断面が三角形の木材を井桁（いげた）に組んで壁を作る工法です。湿気が多いときは木材が膨らんで隙間をふさぎ、乾燥すると木材が縮んで風を通すという、自然の作用を利用した高い調湿機能を備えています。
問10	答え 4 国分尼寺	国分尼寺は、国分寺と同様に「鎮護国家」の願いを込めて建てられました。法華滅罪之寺とも呼ばれ、女性僧侶（尼）が修行を行い、祈りを捧げる場所でした。各地の国府の近くに建てられ、国分寺とともに仏教信仰の地域的拠点として重要な役割を果たしました。
問11	答え 2 公地公民	公地公民とは、すべての土地と人民を国家が直接管理し、公的なものとする原則です。これにより戸籍を作り、国民に田地を分け与えることで、税を徴収する仕組みを整えました。
問12	答え 4 正倉院	聖武天皇が亡くなった際、光明皇后が天皇をしのいで東大寺に奉納した品々を収めた校倉造りの建物です。楽器や鏡、美術品など、当時の国際交流を物語る非常に貴重な宝物が数多く保管されています。
問13	答え 1 風土記	風土記には、その土地の名前の由来、特産物、地形、古い伝承などが詳しく記されています。現存するものとしては、『出雲国風土記』が非常に詳しいことで知られています。
問14	答え 2 万葉集	万葉集は、現存する日本最古の和歌集です。歌人としても有名な大伴家持が編纂に大きく貢献したとされており、奈良時代末期までに完成しました。収録されている歌は、天皇から防人、農民まで非常に幅広い階層の人々によって詠まれたものであり、当時の多様な人々の感情や生活文化が生き生きと表現されています。
問15	答え 4 班田収授法	班田収授法は、戸籍を作成して6歳以上のすべての人々に「口分田」と呼ばれる土地を分け与える制度です。受け取った人は、その見返りとして租・庸・調などの税を納める義務を負いました。本人が死亡したときには、その土地を国に返却する仕組みです。この土地制度により、国家による民衆の把握が徹底されました。
問16	答え 4 防人	防人は、大和朝廷が九州地方の防衛のために配置した兵士です。主に東国（現在の関東地方）の農民から徴兵され、長期間の任期で現地に派遣されました。万葉集には、故郷を離れる寂しさや任務の過酷さを歌った防人の歌が多く収められており、当時の人々の苦しい生活の様子を今に伝えています。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 律令制	律令制は、中央に省を置く官僚機構や、地方への国司の派遣、戸籍をもとにした班田収授法などの制度によって構成されています。これにより、国家による土地と人民の直接的な統治が実現しました。
問2	答え 4 太政官	太政官は、八省を統括し、国政の運営を担当する最高機関です。長官である太政大臣を中心に、左大臣、右大臣などが政治の実務を行いました。
問3	答え 3 東大寺	聖武天皇の命により、各国の国分寺を束ねる総本山として建設されました。特に本尊である大仏の建立は、当時の国家プロジェクトとして非常に大きな規模で行われました。
問4	答え 2 墾田永年私財法	743年に制定された墾田永年私財法は、新しく開墾した土地を一定の条件のもとで永久に私有することを認めた制度です。それまでの「公地公民」の原則を大きく転換し、貴族や寺院による土地開発を促進しました。
問5	答え 4 国司	「国司」は、朝廷から地方の「国」に派遣される長官です。その国の政治・裁判・軍事など全般を管理する非常に重要な職務でした。任期があり、現地の実務を担う郡司を指揮して効率的な地方支配を行いました。
問6	答え 2 鑑真	鑑真は唐で名高い高僧でしたが、日本の僧侶からの要請に応え、5回もの失敗や失明という苦難を乗り越えて6回目ようやく来日を果たしました。奈良の東大寺に戒壇を築き、多くの僧に戒律を授けました。また、その後には唐招提寺を開いています。
問7	答え 4 聖武天皇	聖武天皇は、各地に国分寺を建て、東大寺には大仏を造立しました。彼の没後、光明皇后がその冥福を祈り、愛用していた多くの品々を東大寺に奉納したものが、現在の正倉院の宝物となっています。
問8	答え 3 墾田永年私財法	政府は、743年に「墾田永年私財法」を制定しました。これにより、新しく開墾した土地の私有が永久に認められるようになりました。それまで制限されていた土地所有が可能となったため、人々は競って開墾を行い、生産性を高めようとしていました。
問9	答え 2 鎮護国家	鎮護国家とは、仏教の加護によって国を安定させ、平和を守ろうとする思想です。聖武天皇は、この思想を国家運営の柱とし、東大寺に巨大な大仏を造立しました。また、あわせて全国に国分寺や国分尼寺を建立させるなど、仏教による統治を強めました。
問10	答え 1 班田収授法	班田収授法は、6歳以上の男女に口分田という田地を貸し与え、その人が亡くなれば国に返させる制度です。この田地から収穫された米の一部が税として国家に納められました。
問11	答え 3 仏教	当時の仏教は、国家の公的な儀式のみならず、次第に一般民衆の生活や心にも浸透していきました。行基などの僧侶が、禁じられていた私的な布教活動を行い、民衆を救済するために活動したことで、広い層に広まりました。
問12	答え 4 国司	国司は、その土地の税の徴収や戸籍の管理、裁判など、地方行政全般を担いました。任期を定めて中央から派遣することで、地方での権力固着を防ぐ仕組みとなっていました。
問13	答え 2 墾田永年私財法	743年に制定された墾田永年私財法は、新しく開墾した土地の永代私有を認めるものです。それまでは一定期間後に土地を返還するルールでしたが、この法律により私有が認められたことで、農民や有力者による開墾が活発になりました。
問14	答え 2 万葉集	万葉集は、現存する日本最古の和歌集です。歌人としても有名な大伴家持が編纂に大きく貢献したとされており、奈良時代末期までに完成しました。収録されている歌は、天皇から防人、農民まで非常に幅広い階層の人々によって詠まれたものであり、当時の多様な人々の感情や生活文化が生き生きと表現されています。
問15	答え 1 国司	国司は、中央政府の意向を地方へ伝え、郡司を管理することで徴税や戸籍管理を行いました。郡司の実務を監視し、定期的に中央へ報告する義務がありました。
問16	答え 1 郡司	「郡司」は、地方の行政単位である郡の実務責任者です。かつて地方の有力豪族であった人々が任命されました。都から派遣された「国司」をサポートし、税の徴収や戸籍の管理などの実務を担当しました。

問1 奈良時代、唐の進んだ政治制度や文化を学ぶために、日本が中国へ派遣した使節団を何という？

1. 遣高麗使 2. 遣明使 3. 遣隋使 4. 遣唐使

問2 度重なる渡航の失敗や失明という困難を乗り越え、日本に正式な仏教の戒律を伝えた唐の僧は誰？

1. 空海 2. 行基 3. 鑑真 4. 最澄

問3 天皇を中心として、国司や郡司などの仕組みを整えて全国を支配した国家体制を何という？

1. 律令国家 2. 封建国家 3. 都市国家 4. 中央集権国家

問4 奈良時代の班田収授法において、政府から農民一人ひとりに分け与えられた田を何という？

1. 公田 2. 口分田 3. 永代私財 4. 名田

問5 人口増加により不足し、開墾のきっかけとなった、政府が農民に与えた土地を何という？

1. 口分田 2. 公田 3. 職田 4. 位田

問6 律令制度のもと、中央政府から地方に派遣されて郡司を指揮し、各地の統治を担当した役人を何という？

1. 太宰帥 2. 郡司 3. 国司 4. 里長

問7 710年、現在の奈良県に建設され、奈良時代の政治の中心となった都を何という？

1. 藤原京 2. 平城京 3. 長岡京 4. 平安京

問8 奈良時代、人口増加に伴う口分田の不足を解消するために、開墾した土地の永代私有を認めた法律を何という？

1. 大化の改新 2. 墾田永年私財法 3. 公地公民制 4. 三世一身法

問9 平城京の設計のモデルとなった、唐の都の名前を何という？

1. 平安京 2. 長安 3. 洛陽 4. 平城京

問10 聖武天皇が鎮護国家を目的として、全国各地に建立させた官立の寺院を何という？

1. 国分寺 2. 氏寺 3. 官寺 4. 尼寺

問11 大伴家持が活躍し、万葉集がまとめられたのは何時代？

1. 奈良時代 2. 平安時代 3. 飛鳥時代 4. 鎌倉時代

問12 戸籍に基づいて人々に口分田を与え、死後には国に返させるという奈良時代の土地制度を何という？

1. 三世一身法 2. 公地公民制 3. 墾田永年私財法 4. 班田収授法

問13 土地や人民を国家が支配し、法に基づいて政治を行う仕組みを何という？

1. 官僚制 2. 律令制 3. 徴兵制 4. 封建制

問14 令制国に派遣され、徴税や裁判といった地方の行政を担った官吏を何という？

1. 郡司 2. 里長 3. 防人 4. 国司

問15 律令制において、郡の長として地方の政治を担った有力者を何という？

1. 渡来人 2. 百姓 3. 貴族 4. 豪族

問16 聖武天皇が国分寺とともに、日本各地の女性のために建立させた寺院を何という？

1. 国分寺 2. 元興寺 3. 大安寺 4. 国分尼寺

答え合わせ・解説

問1	答え 4 遣唐使	遣唐使は、天皇の命を受けて唐の都である長安へ赴き、最新の仏教や学問、政治体制を吸収しました。阿倍仲麻呂や最澄、空海など、多くの著名な人物も遣唐使として渡航し、帰国後に日本の文化や仏教の発展に大きく貢献しました。
問2	答え 3 鑑真	唐の僧である鑑真は、日本の僧からの熱心な招聘に応じ、5度もの遭難や失明という苦難を乗り越えて、6度目の来日を果たしました。日本に正しい仏教を伝え、多くの僧に戒を授けたほか、平城京に唐招提寺を建てて修行の場としました。
問3	答え 1 律令国家	律令国家とは、法律（律と令）に基づき、官僚組織を整えて全国を支配する体制です。中央には太政官などの行政機関、地方には国・郡・里を設置し、中央から役人を派遣しました。この仕組みにより、戸籍を作成して人々に税を課し、中央政府が全国の土地と人民を把握する支配構造を実現しました。
問4	答え 2 口分田	6歳以上の男女に与えられ、その代償として農民は租・庸・調などの税を納める義務を負いました。農民の死後は国に返還する決まりとなっていました。この土地で稲を栽培し、国の財政を支える仕組みでした。
問5	答え 1 口分田	口分田（くぶんでん）は、戸籍に基づき、6歳以上のすべての人々に政府が支給した耕作地です。農民はこの田から上がる収穫に対して税（租）を納める義務がありました。しかし、奈良時代に入ると人口が増加したため、国家が支給できる田が足りなくなり、新たな開墾が進められる要因となりました。
問6	答え 3 国司	国司は都から派遣された貴族階級の官僚で、現地の有力者である郡司を指導し、税の徴収や戸籍の管理、治安維持を行いました。地方行政の最高責任者として大きな権力を持っていました。
問7	答え 2 平城京	710年に元明天皇によって遷都された計画都市です。中国の唐の都である長安を手本にして設計され、整然とした道路が碁盤の目状に配置されていました。政治・経済の中心地として繁栄し、遣唐使などによって国際的な文化が開花しました。
問8	答え 2 墾田永年私財法	743年に制定された墾田永年私財法は、新しく開墾した土地の永代私有を認めるものです。それまでは一定期間後に土地を返還するルールでしたが、この法律により私有が認められたことで、農民や有力者による開墾が活発になりました。
問9	答え 2 長安	長安は、当時の中国の首都であり、碁盤の目状にきれいに区画された都市構造を持っていました。日本はこの長安の計画を参考にして、平城京を建設しました。中央に朱雀大路という広い通りを通し、東西の市（市場）を配置するなど、国家の権威を象徴する都市づくりが行われました。
問10	答え 1 国分寺	国分寺は、聖武天皇が全国60余国に命じて建てさせた寺院です。各国の国分寺と国分尼寺は、東大寺を総本山とするネットワークの一部として機能しました。これにより、地方にまで仏教の教えと国家の影響を浸透させ、仏の力で国の安定を図りました。
問11	答え 1 奈良時代	奈良時代は、仏教文化が開花するとともに、国史の編纂や文学作品の執筆が盛んに行われた時期です。歌人である大伴家持はこの時代の末期に活躍し、彼を中心に日本最古の歌集である『万葉集』が編纂されました。この時代、国家が整い、大陸の文化を吸収しながら日本独自の個性を確立しようという気運が強まっていました。
問12	答え 4 班田収授法	班田収授法は、戸籍を作成して6歳以上のすべての人々に「口分田」と呼ばれる土地を分け与える制度です。受け取った人は、その見返りとして租・庸・調などの税を納める義務を負いました。本人が死亡したときには、その土地を国に返却する仕組みです。この土地制度により、国家による民衆の把握が徹底されました。
問13	答え 2 律令制	律令制は、中央に省を置く官僚機構や、地方への国司の派遣、戸籍をもとにした班田収授法などの制度によって構成されています。これにより、国家による土地と人民の直接的な統治が実現しました。
問14	答え 4 国司	国司は、国府を拠点として、租庸調の徴収や公共事業、裁判など地方における行政実務を一手に担いました。これにより、中央政府の命令が地方のすみずみまで行き届く仕組みが完成しました。
問15	答え 4 豪族	郡司は、国司の指揮下に入り、戸籍の作成や徴税の補助といった行政の実務を行いました。終身制であったため、現地の地盤を持つ豪族たちがその地位を世襲的に継承することが一般的でした。
問16	答え 4 国分尼寺	国分尼寺は、国分寺と同様に「鎮護国家」の願いを込めて建てられました。法華滅罪之寺とも呼ばれ、女性僧侶（尼）が修行を行い、祈りを捧げる場所でした。各地の国府の近くに建てられ、国分寺とともに仏教信仰の地域的拠点として重要な役割を果たしました。

問1 奈良時代に、中国の制度や文化を学ぶために派遣された使節を何という？

1. 遣新羅使 2. 遣隋使 3. 遣明使 4. 遣唐使

問2 聖武天皇の時代に奈良を中心に栄えた、唐や西アジアの文化の影響を受けた国際色豊かな文化を何という？

1. 国風文化 2. 白鳳文化 3. 天平文化 4. 飛鳥文化

問3 防人として徴兵された農民たちは、主に日本のどの地方から選ばれていましたか？

1. 東国 2. 畿内 3. 西国 4. 東北

問4 朝廷が令制国ごとの土地の由来や産物などを記録させた地理書を何という？

1. 風土記 2. 日本書紀 3. 古事記 4. 万葉集

問5 713年、国ごとに地理や産物などをまとめるように命じた天皇は誰？

1. 孝徳天皇 2. 推古天皇 3. 聖武天皇 4. 元明天皇

問6 律令制度において、神祇官と共に二官の一つとして行政の統括を担った機関を何という？

1. 神祇官 2. 検非違使 3. 弾正台 4. 太政官

問7 郡司が行政に携わった、大宝律令などに基づく国家体制を何という？

1. 古代国家 2. 中央集権国家 3. 律令国家 4. 封建国家

問8 大伴家持らが編纂に関わったとされる、現存する日本最古の和歌集を何という？

1. 新古今和歌集 2. 万葉集 3. 古今和歌集 4. 懐風藻

問9 万葉集にある歌の序文から引用された、現在の日本の元号を何という？

1. 平成 2. 令和 3. 大正 4. 昭和

問10 正倉院にゆかりの品々がおさめられている、奈良時代の天皇は誰？

1. 天武天皇 2. 桓武天皇 3. 孝徳天皇 4. 聖武天皇

問11 唐の長安を模して造られ、奈良時代に都が置かれた場所を何という？

1. 平城京 2. 藤原京 3. 長岡京 4. 平安京

問12 奈良時代の九州地方に派遣され、防衛の任務についた兵士を何という？

1. 兵士 2. 衛士 3. 健児 4. 防人

問13 郡司が指揮下に入っていた、中央から派遣された地方長官のことを何という？

1. 国司 2. 防人 3. 郡司 4. 里長

問14 平城京の設計のモデルとなった、唐の都の名前を何という？

1. 平安京 2. 長安 3. 洛陽 4. 平城京

問15 聖武天皇が国分寺とともに、日本各地の女性のために建立させた寺院を何という？

1. 国分寺 2. 元興寺 3. 大安寺 4. 国分尼寺

問16 戸籍に基づいて人々に口分田を与え、死後には国に返させるという奈良時代の土地制度を何という？

1. 三世一身法 2. 公地公民制 3. 墾田永年私財法 4. 班田収授法

答え合わせ・解説

問1	答え 4 遣唐使	遣唐使は、7世紀から9世紀にかけて、日本が唐へ派遣した公式の使節団です。留学生や学問僧らが同行し、唐の政治制度、仏教、建築、美術、音楽など、多岐にわたる先進的な知識を日本に持ち帰りました。これらは当時の日本社会を急速に発展させる原動力となりました。
問2	答え 3 天平文化	天平文化は、聖武天皇を中心とする貴族や仏教が主導した文化です。唐の影響だけでなく、シルクロードを通じて伝わった西アジアの文化の影響も強く見られ、国際的で豪華な特徴を持っています。代表例として、東大寺の大仏建立や、正倉院に保管されている宝物などがあります。
問3	答え 1 東国	当時の東国は馬の飼育や弓の技術に長けた者が多く、軍事的な実力が高く評価されていました。しかし、九州の防衛任務は3年という長期に及ぶ厳しいもので、遠く離れた地への赴任は農民たちに大きな負担を強いました。家族と別れ、命の保証もない任務に向かう彼らの苦悩は深く、多くの切ない歌が詠まれました。
問4	答え 1 風土記	風土記には、その土地の名前の由来、特産物、地形、古い伝承などが詳しく記されています。現存するものとしては、『出雲国風土記』が非常に詳しいことで知られています。
問5	答え 4 元明天皇	第43代天皇で、710年の平城京遷都を実行しました。また、国家の歴史や伝承をまとめるために、太安万侶らに『古事記』の編纂を命じ、各地の地理や産物を記録する『風土記』の作成を命じました。国力を充実させ、安定した統治を目指した人物です。
問6	答え 4 太政官	太政官は、八省を統括し、国政の運営を担当する最高機関です。長官である太政大臣を中心に、左大臣、右大臣などが政治の実務を行いました。
問7	答え 3 律令国家	律令国家では、公地公民の原則に基づき、戸籍を作成して人々に税を課しました。中央では二官八省が行政を担い、地方では国司と郡司が行政の実務を行うシステムが構築されました。
問8	答え 2 万葉集	万葉集は、現存する日本最古の和歌集です。歌人としても有名な大伴家持が編纂に大きく貢献したとされており、奈良時代末期までに完成しました。収録されている歌は、天皇から防人、農民まで非常に幅広い階層の人々によって詠まれたものであり、当時の多様な人々の感情や生活文化が生き生きと表現されています。
問9	答え 2 令和	「令和」は、日本で初めて日本の古典（国書）から選ばれた元号です。奈良時代の歌人である大伴旅人らが、梅の花を愛でる宴で詠んだ歌の序文にある「初春の令月にして、気淑く風和らぎ」という一節から引用されました。「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められています。
問10	答え 4 聖武天皇	聖武天皇は、各地に国分寺を建て、東大寺には大仏を造立しました。彼の没後、光明皇后がその冥福を祈り、愛用していた多くの品々を東大寺に奉納したものが、現在の正倉院の宝物となっています。
問11	答え 1 平城京	710年に飛鳥から遷都された平城京は、当時の中国である唐の都・長安を模して作られました。道が碁盤の目状に整備され、天皇が住む宮殿を中心に官庁が並ぶ、本格的な計画都市でした。ここを拠点として、全国の国司を指揮し、租税を徴収する律令政治が行われました。
問12	答え 4 防人	防人は、大和朝廷が九州地方の防衛のために配置した兵士です。主に東国（現在の関東地方）の農民から徴兵され、長期間の任期で現地に派遣されました。万葉集には、故郷を離れる寂しさや任務の過酷さを歌った防人の歌が多く収められており、当時の人々の苦しい生活の様子を今に伝えています。
問13	答え 1 国司	国司は、中央政府の意向を地方へ伝え、郡司を管理することで徴税や戸籍管理を行いました。郡司の実務を監視し、定期的に中央へ報告する義務がありました。
問14	答え 2 長安	長安は、当時の中国の首都であり、碁盤の目状にきれいに区画された都市構造を持っていました。日本はこの長安の計画を参考にして、平城京を建設しました。中央に朱雀大路という広い通りを通し、東西の市（市場）を配置するなど、国家の権威を象徴する都市づくりが行われました。
問15	答え 4 国分尼寺	国分尼寺は、国分寺と同様に「鎮護国家」の願いを込めて建てられました。法華滅罪之寺とも呼ばれ、女性僧侶（尼）が修行を行い、祈りを捧げる場所でした。各地の国府の近くに建てられ、国分寺とともに仏教信仰の地域的拠点として重要な役割を果たしました。
問16	答え 4 班田収授法	班田収授法は、戸籍を作成して6歳以上のすべての人々に「口分田」と呼ばれる土地を分け与える制度です。受け取った人は、その見返りとして租・庸・調などの税を納める義務を負いました。本人が死亡したときには、その土地を国に返却する仕組みです。この土地制度により、国家による民衆の把握が徹底されました。